

予報期間 10月26日から11月1日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 28日は、発達した低気圧がオホーツク海をゆっくり東へ進み、高気圧が朝鮮半島付近に移動する。
- 29日は、高気圧が東日本付近に移動し、沖縄の南から日本の南に前線がのびる。
- 30日は、高気圧が日本の東に移動する。
- 31日から11月1日は、日本付近に気圧の谷が進む。

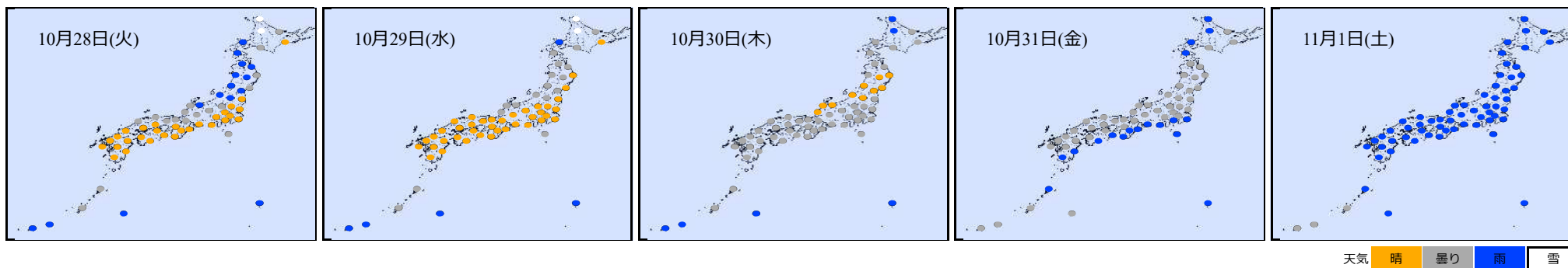
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 28日にかけて、北日本では低気圧の影響で荒れた天気になり、低気圧の発達によっては大荒れや大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

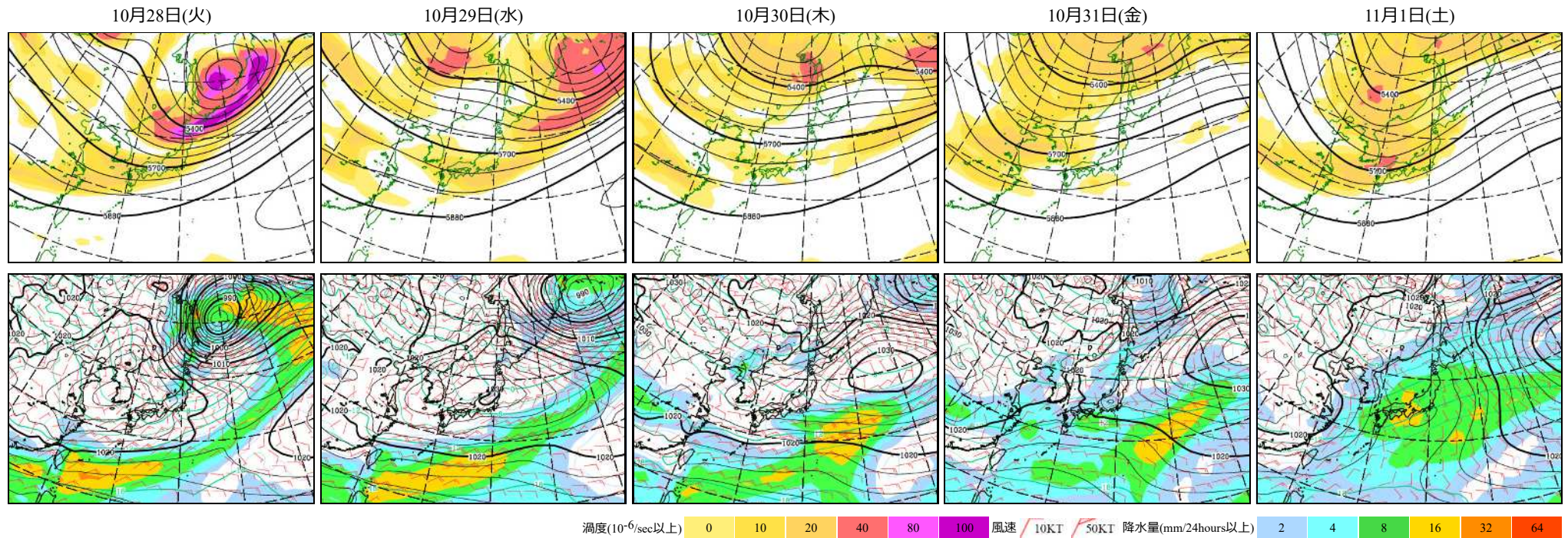
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

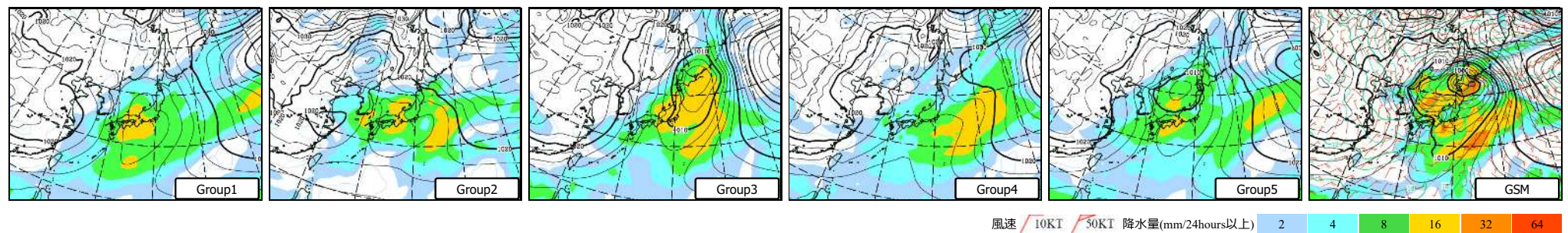


- 北日本日本海側と東日本日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、30日は晴れる所がある。
- 北日本太平洋側は、曇りや晴れる日が多いが、28日と11月1日は雨の降る所がある。
- 東日本太平洋側と西日本は、曇りや晴れる日が多いが、31日と1日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、28日はオホーツク海の低気圧が南西に寄った。29日から31日にかけて朝鮮半島付近から日本の東に移動する高気圧の東進が遅くなり、本州付近への張り出しが強くなった。
- 降水確率ガイダンスの値に大きな初期値変わりはない。
- 28日から30日にかけて、高気圧が朝鮮半島付近から日本の東に移動することは各モデルで揃っているが、31日から11月1日の気圧の谷や低気圧の位置についてはモデル間に差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。